

シンポジウム

家族看護における文化的能力

森山美知子（広島大学大学院）

山本則子（千葉大学）

日本家族看護学会第12回学術集会は、「家族看護実践の展開—文化や社会に焦点を当てて」というテーマを掲げています。家族を対象とした看護実践において、その家族の置かれた社会や文化、個々の家族に特有な「小文化」へのまなざしを欠くことはできません。その一方で、看護職自らのもつ社会・文化的背景が自分にとってあまりにも当然であるがゆえに意識化されず、それらが自分の看護にどのような影響を与えているかに思い至らないこともあります。

「文化的能力 cultural competency」とは、他文化国家である米国を中心として近年よく聞かれる用語で、以下のように説明されています。

ヘルスケア提供者及び組織が患者や家族の文化的ニーズに対して効果的に応える能力であり、患者や家族とのコミュニケーション能力や、患者や家族の視点から問題や望みを捉える能力などを含んでいる。…文化的能力獲得の第一歩は、ヘルスケア提供者自身の中にある他文化に対する偏見を認め、その影響を知ることから始まる。文化的能力とは、いわば、人間の多様性や異質性など、差異の容認に関わる能力であり、自分自身を相対化し、対象者の世界観を理解し、対象者との間の隔たりを埋める能力である（岩崎弥生：「精神看護における文化と家族看護」家族看護学研究 10(1), 52-26, 2004）。

家族看護実践に関わる者は、単に自分と異なる文化を理解するだけでなく、対象者との隔たりを埋めて関わり、より健康な状態へ向かうような働きかけができなくてはなりません。今回はそのような家族看護における看護職の文化的能力に焦点を当て、日本の家族看護における各現場で求められる文化的能力とその展開、文化的能力という観点からの家族看護実践向上のための課題と対応策を議論したいと思いました。

本シンポジウムでは、教育研究の実践現場や看護実践現場に身を置く4名のシンポジストにお集まりいただき、以上のテーマについて、実践活動を基にしたお考えをご発言いただき、家族看護実践における文化的能力について、考えを深めたいと思います。